

# 総合人間科学 倫 理 学

## 1 構 成 員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（ 0人）
助教（うち病院籍）	0人（ 0人）
助手（うち病院籍）	0人（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（ 0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	1人

## 2 教員の異動状況

森下 直貴（教授）（2002年11月～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1編（ 1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（ 2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（ 1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴, 「終末期における「臨床的眞実」 - <思いやり>と<決まり>の根源」 日本哲学会『哲学』58: 97-114, 2007. 4

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

- 1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

- 1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

- 1.

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

- 1.

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

- 1.

## (3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下 直貴, 書評『入門・医療倫理Ⅰ・Ⅱ』 日本生命倫理学会「ニューズレター」36号, 5-6頁

2. 森下 直貴, 書評『永遠の絶滅収容所 動物虐待とホロコースト』 図書新聞2839号, 3-3頁

インパクトファクターの小計 [0.00]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

- 1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1.

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 加藤尚武編『応用倫理事典』丸善, 2008. 1 森下直貴（項目執筆）：ケアリングの倫理, 看護とウェルビーイング

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### 4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数（出願中含む）	0件

1.

#### 5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (300万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 ( 0万円)

(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

生命操作時代における「責任意識」と「規範形成」の感情論的基礎づけ(平成18~20年度) 300万円

(2) 厚生科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

1.

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	1件	1件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. 森下直貴, 無形のものたちのリアリティ: 日本人の死生感の現在

日中国際研究会議「東アジアの死生学へ」, 北京・社会科学研究所, 2008. 2. 18

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

1. 森下直貴, 共同討議2: 終末期における「臨床的真実」: <決まり>と<思いやり>の根源  
日本哲学会第66回大会, 千葉大学, 2007. 5. 19

4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 日本医学哲学・倫理学会: 理事 (国内学術交流担当)
2. 日本生命倫理学会: 評議員
3. 日本倫理学会: 編集委員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

## 9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

ナノテクノロジーの倫理，東洋英和女学院・大林雅之ほか生存研究所。  
昭和思想史研究，岐阜大・津田雅夫ほか。

(3) 学内共同研究

## 10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

1.

## 11 受賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

1. 客員研究員：ペンシルベニア大学：バイオエシックス研究センター，2008.3

(3) 国内での受賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. <倫理的ネットワーク>の視点から「常識」の構造と変容プロセスを考察した。具体的には、ものと情報と人が境界を越えて交流し合う「グローバル世界」が到来するとき、「常識」において何が変化し、変化のなかで何が持続するかを見極めるために、三つの視角から考察を進めた。一つは生命倫理・医療倫理のケースであり、とくに終末期医療のうちにコンセンサスとコモンセンスのつながりを探ることを通して、最小限主義の倫理の必要性を唱えた。二つめは日本人の現在の死生感の分析であり、とくに世代論を重視して、時代論を背景におきながら、日本人のあいだには現在、世代ごとに異なる三つの常識（生と死の感じ方）が混在していることを浮き彫りにし、それを考慮することなしにはコンセンサスを論じることはできない点を明らかにした。三つめは昭和思想論である。昭和という時代を近代化・グローバル化のうちに位置づけつつ、世界思想史の視野のなかで、後期西田哲学から三木清と戸坂潤につながる思考の流れを、グローバルな世界に通じる<ものの思考>として特徴づけた。それは同時に、日本文化の底流と人類的原形とのコモンセンス的な結びつきを示すものでもある。この点を中国、アメリカ、スウェーデンに赴き、当地の学者たちと議論するなかで確認し、<虫の視点>という形で具体化してきた。以上、計画当初の予想を上回る成果を挙げることができた。なお、上記に関連する論文はすべてほぼ完成しており、別の編者による二つの論文集のそれぞれ一編として20年度内に公刊される予定である。

## 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1.

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1.

15 新聞，雑誌等による報道

1.